

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.29 2017/8/7

与板鍛冶体験工房好評のうちにスタート！

6月24日にオープンした鍛冶体験工房。新聞やTVニュースなどでも取り上げられ、大きな反響を呼びました。すでに今日までに3回の体験日を実施し、計9名の方が職人の指導の下切り出し小刀を製作しました。



猛暑の中の鍛冶場の熱さ！流れ落ちる汗をものともせず、ハンマーやグラインダー

に向かう真剣な顔、顔。教えるほうも習うほうも良い刃物を造りたいという一途な気持ちは一緒。だから心と心が通い合います。体験後のアンケートには、「鍛冶職人さんたちが本当に丁寧にきめ細かなところまで指導して下さい、とても感激でした」と、つぶられてありました。



埼玉大学生が与板打刃物で新たな発信拠点

刃物工芸館が美術学生の手により、与板のギャラリーとして生まれ変わった。



7月半ばに開館した店内には、与板で10年間の交流を重ねて築き上げてきた刃物研修の成果と、刃物を使ったアート作品が展示されている。9月十五夜祭りの日まで展示は続けられ、9月16日にはトークイベントが公開されることになっている。

来賓の大使 与板の伝統技術を熱心に見学

8月4日ニュージーランド大使が長岡訪問のコースとして与板打刃物の現場を見学。渡徳工業さんでは「鍛接鍛造」の実際を説明を受け熱心に質問をしながら見学。刃物工芸館では、ズラリと並んだ型変わりの刃物を一つ一つ丹念に見入って、先を促す随員職員の声に、「もう少しここに居たい」と周囲を笑わせていました。お国ニュージーランドにもぜひご紹介いただきたいですね。

